

永野小学校・学校だより(12月)

三つの言葉

校長 小泉 啓治

木枯らしが吹くようになり、環状2号線のケヤキの並木もほとんど冬の装いになりました。インフルエンザで欠席(出席停止ですが)する子どもたちも見られるようになりました。今年のカレンダーもあと1枚になり、何かと慌ただしい気持ちになるこの頃です。

11月13日から15日まで、5年生は愛川体験学習に行ってきました。3日間とも素晴らしい天気にも恵まれ、予定通りの活動ができました。愛川ふれあいの村は、宿泊棟をクラス毎に4棟使うため、全部の連絡がしにくい構造になっています。さらにこの日は同宿校や団体が入っていて、別棟になっている食堂や浴場の使用時間が限られていました。子どもたちが、しおりを見ながら、約束を思い出しながら自主的に動かないと、予定通りに生活できないという事態も起こりやすいのですが、見事に「5分前行動」を実行していて感心させられました。

1日目の高取山の登山の時は、最も空気が澄んでいて横浜のランドマークや東京タワーまで見えたあとで教えてくれました。この日、同じコースで登っていた熟年のグループと、出会った子どもたちが気持ちのよい挨拶やお話しをしたようです。たまたまその中のお一人が日限山にお住まいの方で、お子さんが永野小学校に通っていたとのこと。

「疲れていた私たちに、みなさんは元気を分けてくれました」

と、後日お電話とお手紙をいただきました。うれしい出会いです。

2日目の選択活動には、マス釣りがありました。初めはえさのブドウ虫をさわれなかったり、釣り上げたニジマスそのものにさわれなかったりで、キャーキャー言っていた子どもたちも、炭火の上で香ばしいにおいがしてくると「まだダメ?もう食べられるでしょ?」と待ち遠しそう。最後の感想には次のようなものがありました。

「僕たちは、いろいろな生き物の命をいただいて生きている」

また、22日には全校遠足が予定通り行われました。当日は、11月としては記録的な大雪の便りが北国から届いた日ですが、舞岡公園の日だまりは風もなくポカポカ陽気でした。

異学年の子ども同士のふれあいは本校で大切にしているものの一つです。往復の歩き、公園内での永野っ子ラリー、お弁当、グループ遊びと、6年生の班長さんを中心にとても上手に過ごしていました。例年、グループからはぐれてしまう下級生が何人かですが、今年は一人もいませんでした。

公園に着いて、ラリーが始まる前に2人の女の子が、

「今日、お友だちになろうね」

と話しているのが聞こえてきました。たまたまそばを通りがかったのですが、こちらの心までがほこほこと温かくなってきました。同じ班で、ずっと活動してきていますから、前から名前も顔も分かっていたと思いますが、今までよりもっと仲良しになろうという意味でしょう。きっと、どの子にも、より仲良しになった異学年の友だちがいっぱいできたと思います。ここまでグループをまとめてきた6年生に感謝です。また、当日、交通整理等にお手伝いいただいた保護者の皆様やサポーターズの皆様に改めてお礼を申し上げます。ありがとうございました。